

高等学校

平成 4 年 度

教育 研究 員 研究 報告 書

保健 体育

東京都教育委員会

平成4年度

教 育 研 究 員 名 簿

	氏 名	学 校 名
器 械 運 動	◎ 鈴 木 昭 一	都立大森東高等学校
	○ 林 秀 吉	都立駒場高等学校
	俵 田 浩 一	都立竹早高等学校
	関 口 知 之	都立小岩高等学校
	水 谷 秀 一	都立北多摩高等学校
	大 関 由美子	都立武蔵野北高等学校
バス ケ ット ボ ール	湯 川 泉	都立西高等学校
	戸 谷 賢 司	都立杉並工業高等学校
	古 山 光 久	都立小石川高等学校
	黒 澤 達 郎	都立上野高等学校
	○ 佐 藤 喜 一 郎	都立葛飾野高等学校
	杉 山 正 明	都立成瀬高等学校
	飯 田 圭 一 郎	都立忠生高等学校

◎ 全体世話人      ○ 副世話人

担当 体育部体育健康指導課 体育健康指導課長 高 田 日呂美

指 導 主 事 本 村 清 人

指 導 主 事 柿 添 賢 之

# 目 次

主題 「学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫」  
— 器械運動・バスケットボールを通して —

## I 研究主題と研究経過

1. 主題設定の趣旨 .....	2
2. 研究の方針 .....	2
3. 研究の経過 .....	2

## II 研究の内容

### 「器械運動」

1. 研究内容 .....	3
2. 「器械運動」の特性とねらい .....	3
3. 意識・実態調査とその考察 .....	4
4. 指導計画 .....	7
5. 指導事例（実証授業） .....	9
6. 指導結果とその考察 .....	12
7. まとめと今後の課題 .....	13

### 「バスケットボール」

1. 研究内容 .....	14
2. 「バスケットボール」の特性とねらい .....	14
3. 意識・実態調査とその考察 .....	15
4. 指導計画 .....	18
5. 指導事例（実証授業） .....	21
6. 指導結果とその考察 .....	23
7. まとめと今後の課題 .....	24

# I 研究主題と研究経過

## 1. 主題設定の趣旨

近年、我が国においては、自由時間の増加や生活水準の向上、高齢化の進展など社会の変化を背景に、体育・スポーツのあり方についてもこれまでと大きく変化し、国民の間に文化の一つとして生活の中に定着してきている。

学校体育においては、生涯体育・スポーツを一層重視する観点から、計画的に運動を実践する能力や態度を育成し、健康の増進と体力の向上を図ることが強調され、生涯を通して明るく豊かで活力のある生活を送ることができる生徒の育成が求められている。

平成4年度教育研究員保健体育部会は、生涯体育・スポーツの基礎づくりという観点に立ち、研究主題：「学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫」に基づき、選択制授業の「器械運動」「バスケットボール」を通して主題に迫ることとした。

## 2. 研究の方針

研究は、A班「器械運動」、B班「バスケットボール」について生徒の意識・実態を調査し、学習指導要領の趣旨をふまえ、実証授業を行い、その結果を分析・考察する。

- (1) A班「器械運動」では、生徒が希望する種目を選択し、一人一人が適切な学習課題を持ち、安全に協力して課題に挑戦し、達成感を味わい、学習意欲を高め、自主的・計画的に学習に取り組むことのできる指導計画を作成し、研究する。
- (2) B班「バスケットボール」では、ゲームの楽しさにふれさせながら、学習資料・学習ノートを活用することにより、グループや個人が適切な課題を見だし、自主的・計画的に学習を進めることができるように指導計画を作成し、研究する。

## 3. 研究の経過

- |        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 4・5・6月 | 先行研究の調査，研究主題の設定，研究計画の確認，研究構造図の作成 |
| 7・8月   | 実態調査及び集計，分析，考察，仮説の設定，指導計画・内容の検討  |
| 9・10月  | 指導計画の作成，実証授業，結果の分析・考察            |
| 11・12月 | 報告書の作成，副資料の作成                    |
| 1・2月   | 報告書の作成，研究発表準備，研究発表，本研究の反省と整理     |

## Ⅱ 研究の内容

### 「器械運動」

#### 1. 研究内容

今日の「体育」の指導における課題は、生徒一人一人が、運動の楽しさや充実感を十分に味わうことができ、生涯を通して運動を実践する能力と態度を身に付けることのできる授業を実施することである。

本年度の主題は「学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫」である。A班は「器械運動」を取り上げ、領域内種目選択を実施し、「学習過程の工夫」と「個を生かした指導法の工夫」に主眼をおいて研究した。

選択制授業における「器械運動」に対する生徒及び指導者の意識・実態調査を行い、問題点を分析し、その結果をもとに下記の仮説を設定した。

#### ◎ 仮説

「生徒一人一人に、自己の能力に応じた適切な学習課題を設定させ、学習活動を計画・実践させることにより、学習意欲を高め、自主的に学習できる能力と態度を培うことができる。」

そこで、上記の仮説を検証するために、指導計画を作成し、実証授業を行い、その結果を分析・考察した。

#### 2. 「器械運動」の特性とねらい

##### (1) 特性

- ア 器械運動は、空間における逆位、回転などの非日常的な運動が多い。
- イ 器械・器具の特性に応じた課題を達成する個人的な運動である。
- ウ 個人の能力に応じた課題を選択しやすい運動である。
- エ 系統的・段階的学習をしていくことで、より高度な技を習得することができる。
- オ 自己の能力に応じた各種の技に挑戦し、技の組み合わせを工夫し、その達成やできばえに「楽しさ」や「喜び」を味わうことができる運動である。

カ 新しい技や高度な技などに対し、「恐怖感」を抱きやすい運動である。

キ 高度な技や洗練された技能に対し、「美しさ」や「力強さ」を感じる運動である。

(2) ねらい

ア 空間における逆位、回転などの非日常的な運動を通して、身体支配能力を高める。

イ 個人の能力・適性に合わせて学習課題を設定し、学習計画を立案することで、主体的に学習する能力を養う。

ウ 器具の点検や補助・助言、運動観察などを通して、お互いに協力し、安全に楽しく学習する能力を養う。

エ 生涯を通してスポーツを楽しむ身体支配能力の基礎を養う。

3. 意識・実態調査とその考察

(1) 調査対象

・教師 都立高等学校 46校 保健体育科教諭 82名

・生徒 都立高等学校 6校 593名

2年生(男子)145名 2年生(女子)161名

3年生(男子)146名 3年生(女子)141名

(2) 調査内容

<生徒>

- ・器械運動のイメージ
- ・器械運動に対する意識、種目の経験
- ・器械運動の楽しさ
- ・器械運動の取り組み方
- ・学習課題の立て方
- ・参考資料の活用
- ・評価

<教師>

- ・選択制授業実施の有無
- ・器械運動のイメージ
- ・器械運動の実施の有無と種目の内容
- ・施設・用具
- ・学習資料・教材の活用
- ・学習課題の立て方
- ・安全に対する配慮・工夫
- ・授業形態・グループ編成
- ・評価

(3) 調査時期

平成4年7月

(4) 結果と考察

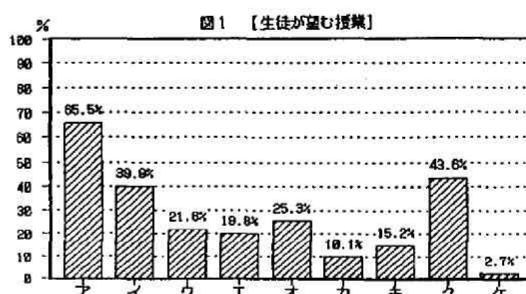
回答は複数回答であり（考察イ・エを除く）、数値は、教師、生徒それぞれの総人数に対する百分率で表示した。

ア 器械運動を、「より意欲的に、楽しくできる授業はどんな授業か」の質問に、「好きな種目ができる」が一番多く、つづいて「技ができるようになる」「じっくり時間をかけて学習できる」とつづく（図1）。

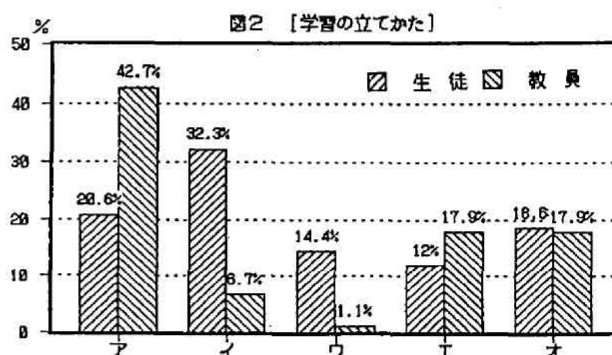
このことにより、領域内の種目を自由に選ばせ、学習課題の克服に十分時間をかけながら、自ら決めた課題を達成させることで、意欲的に学習に取り組む態度が培われると考える。

イ 学習を進めていく上で、「生徒の学習課題をどのように立てていけばよいか」の質問に生徒側は、「自分自身で決める」「グループ内で相談して決める」「全員で相談して決める」という、自主的に自分達の学習課題を決めていく方が良いと考えている生徒が63.7%、また、教師の側も、「生徒達が決める」「グループ内で相談して決める」「全員で決める」という、生徒主体の課題の決め方が50.5%となっている（図2）。

このことから、生徒側、教師側とも学習課題の設定では一人一人の生徒の特性の違いを積極的に認め、興味・関心や自己の能力に応じて、生徒達が主体的に課題を設定し、学習に取り組む姿勢が必要であるということで見られた。また、生徒が、自主的、計画的に学習に取り組むためには、「教師の指導・助言」が有効であると考えており「必要な参考資料・学習資料」



- ア 好きな種目を選べる。
- イ じっくり時間をかけて学習できる。
- ウ わずかしい技をやらない。
- エ 恐い技をやらない。
- オ 到達段階を自分で自由に設定できる。
- カ 発表会をしてお互いに評価する。
- キ 発表会などはしないで自分達で評価する。
- ク 技ができるようになる。
- ケ その他



- ア 生徒自身で課題を決める。
- イ グループ内で相談をして決める。
- ウ 全員で決める。
- エ 先生に一人ずつ指示してもらう。
- オ 先生に各グループごとに指示してもらう。

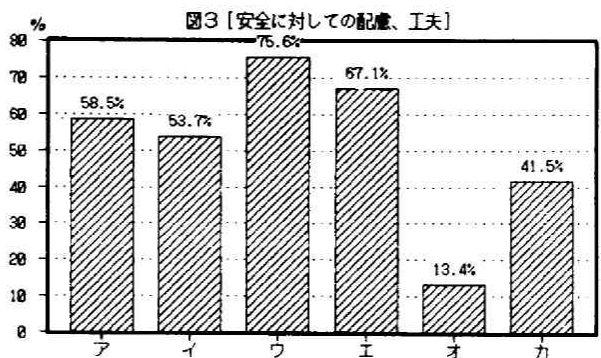
として多かったのは、「一流選手のビデオ」をあげている。生徒が主体的に計画を立てて学習を進めていく上で、教師の指導、適切な助言が重要であり、ビデオ教材は模範演技を見ることによるイメージづくりに有効と考えられる。

ウ 器械運動に対して「怖い」というイメージをもっている生徒が、28%あり、特に女子はその傾向が見られる。また、器械運動を実施している学校では、どの学校においても安全に対して、配慮・工夫を行っている

(図3)。

これは、他の運動領域に比べて器械運動を学習していく上で、より安全にという事が指導の中で大きな役割を占めていると、とらえることができる。

安全への十分な配慮、場の工夫、補強運動、及び事前指導における器械運動の技能構造の理解を深める事等によって、より安全に実践する能力を培う事が大切である。



- ア 事前指導の徹底
- イ 技を限定している (危険な技をしない)
- ウ 補助者を必ずつける (生徒同士、教員の補助)
- エ 用具の工夫 (エバーマット等の使用)
- オ 見学者の配置の工夫
- カ 補強運動の実施

エ 器械運動の授業での取り組みは、「意欲的」「やや意欲的」「普通」と答えた生徒が、全体の70%近くになる。また、「器械運動をやってみたいですか」の質問では、「いいえ」と答えた生徒が47%いる。器械運動に対し、より興味・関心をもたせるためには、指導方法の工夫・改善を行うことが重要である。

オ 「器械運動の授業の中で、生徒が一番充実感が得られたとき」は「課題(技)ができたとき」であると62.5%の生徒が答えている。したがって、より適切な課題(個人の能力に応じた、達成可能な課題)の設定が必要である。

また、生徒の学習過程における助言、及び進歩の度合に対する賞賛の一言も、生徒の充実感に関係が深いと考えられる。

以上の結果から、生徒一人一人に、器械運動の種目を自由に選択させ、自己の能力にあった課題を主体的につかみ、課題に挑戦させることにより、学習意欲を高め、自主的に運動を実践する能力と態度を培う事ができると考える。そのためには、器械運動の特性を十分に理解させ、課題達成の成就感を味わわせる指導の工夫が重要である。



#### 4. 指導計画

##### (1) 指導方針

- ア. 器械運動の特性を理解させ、楽しさやできた時の喜びを味わわせるようにした。
- イ. 生徒の能力に応じた課題を設定させ、自主的・計画的に活動できるようにした。
- ウ. 自他の健康・安全に留意し、互いに協力して活動できるようにした。

##### (2) 指導の工夫

指導の工夫として「学習過程の工夫」と「個を生かした指導法の工夫」に重点を置き、学習を進めた。

###### ① 学習過程の工夫

- ア. オリエンテーションを十分に行い、自己診断により自己の能力を把握し、学習計画の立案、学習資料の活用の仕方を理解させ、安全に学習する態度を身に付けさせる。
- イ. 学習資料を活用し、易から難へ、単技から組み合わせ技へなど系統的・段階的学習や技能構造に対する理解を深めさせ、学習計画を立て、計画に沿った学習を行わせる。
- ウ. 課題達成のためのゆとりのある時間配分（時間の確保）や段階に応じて活動できる場、学習成果を発表する機会を設定する。
- エ. 中間まとめの時間を設定し、これまでの学習を振りかえり、今後の学習計画を再検討し新たな課題をつかませる。

###### ② 個を生かした指導法の工夫

- ア. 領域内種目選択により4種目を同時展開し、自己の目標や課題を設定し、自発的・自主的な学習によって、成就感や達成の喜びを味わわせる。
- イ. 自己診断テストを実施し、自己の能力や運動経験等に基づき適切な課題を設定する。
- ウ. 技の難易度や課題に応じることのできる器械・器具の設置を工夫する。
- エ. 学習資料・視聴覚教材・学習ノート等を活用し、学習課題の設定や学習計画の立案、技能の習得、学習の反省・評価等に生かす。
- オ. 補助の意義や方法を理解し、互いに援助し合い、協力して学習できるようにする。

##### (3) 単元計画

- ア. 今回は第2学年女子を対象に20時間を配当した。
- イ. 単元計画は、平成2年度東京都高等学校教育開発委員会による資料を活用した。当研究ではオリエンテーション・展開Ⅰ・中間まとめ・展開Ⅱ・まとめの指導計画を作成した。

オリエンテーション・展開Ⅰ・中間まとめ・展開Ⅱ・まとめの指導計画

段階	時間	ねらい	生徒	評価	教師	
			学習活動		指導内容	留意点
オリエンテーション	2	・ 選択制授業および領域内種目選択による学習の進め方を理解し、適切な課題をもって学習計画を立案する	①学習の進め方 ②器械運動の特性の理解 ③学習資料の効果的な活用の仕方 ④運動種目の選択 ⑤班および個人の目標の設定 ⑥器械・器具の設置 ⑦自己診断 ⑧課題の設定 ⑨学習計画の作成	・ 学習の進め方が理解できたか ・ 目標や計画が適切であるか ・ 十分に話し合いが行われているか	・ 領域内種目選択を理解させる ・ 安全への配慮をさせる ・ 学習資料の活用方法を理解させる ・ 適切な種目選択をさせる	・ 学習のねらいと進め方を十分理解させる ・ 安全確保のために器械・器具の設置と点検、練習法、補助法の確認をさせる
展開Ⅰ	8	・ 個々の課題に応じて技能の向上を図る	①学習計画に基づいた種目別グループの活動 ②基本的技能の習得	・ 意欲的、主体的に活動できたか ・ 技能の向上がみられたか	・ 補助法や練習手順を理解させ、安全に練習をさせる	・ 器械・器具の管理と安全に注意させる ・ 協力して活動するようにさせる
中間のまとめ	1	・ 種目別グループでの学習活動を反省、評価し今後の学習を再検討する	①種目別グループ毎による学習成果の発表 ②発表に対しての相互評価 ③今後の学習活動の再検討と、新たな課題の発見	・ 適切な意見が出されているか ・ 意見を学習活動の再検討や新たな課題設定に生かしているか	・ まとめが適切に行われるようにさせる ・ 発表で得られた意見から学習を再検討し、今後の課題を明確にさせる	・ 十分に話し合わせ学習の再検討をし、今後の活動がより安全かつ円滑にできるようにさせる
展開Ⅱ	7	・ 高まった技能に応じて新しい工夫をする	①基本的技能の習得 ②より発展した技能の習得 ③組み合わせ技の連続練習	・ 課題の発見解決に協力しているか ・ 技能の向上がみられたか	・ 連続性を意識し合理的で安全な練習をさせる	・ 安全確保のための練習法を点検させる ・ 技の組み合わせを理解させる
まとめ	2	・ 学習のまとめとして発表会を運営し、お互いに評価し合う	①種目別グループ内での発表会の実施 ②自己評価、相互評価を学習ノートに記入 ③学習ノートの整理、種目別グループでの話し合いと学習全体のまとめ ④感想文の提出	・ 発表会の企画、運営に協力できたか ・ 技能が向上し、器械運動の楽しさに触れたか ・ 継続的に運動を実践する意欲、能力が身に付いたか	・ 安全に配慮して発表会を行わせる ・ 課題の設定や学習計画について検討させる ・ グループ毎にまとめと評価を行わせ、次へのステップとさせる	・ 安全かつ円滑な発表会の進行について配慮させる ・ 学習ノートをもとに学習の経過を認識させる ・ 正しく自己評価、相互評価ができるようにさせる

5. 指導事例 (実証授業)

单元名	器械運動 (マット、跳箱、鉄棒、平均台)	配当時間	20時間中1時間目	学年	第2学年女子42名
本時のねらい	<p>◎オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択制授業及び領域内種目選択の意義、ねらいについて正しく理解する。</li> <li>・器械運動の特性を理解し、自主的に、安全に学習を行う方法等を理解する。</li> <li>・自分で学習する種目を選択する。</li> </ul>				
施設 用具	学習資料 説明用プリント 個人ノート				
段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点	
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、挨拶</li> <li>・出欠点呼</li> <li>・選択制における器械運動の学習の進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で課題をもちながら、種目別グループでの学習を通して、自発的・自主的かつ安全に学習を進めていく授業の全体像を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的、積極的に取り組むことの大切さを強調する。</li> <li>・積極的、主体的に活動することにより、達成感、成就感が得られ、生涯にわたって運動に親しむ能力や態度が養えることを理解させる。</li> <li>・教師は、生徒が自主的に学習ができるための指導者であると同時に、積極的な援助者であることを理解させる。</li> <li>・安全のために器械・器具の取り扱い方、補助の仕方、及び学習資料を用いた適切な学習の仕方を理解させる。</li> </ul>	
	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動の特性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械運動の特性や技の体系を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを使用し、安全に留意して、系統的、段階的に学習活動を行わせるために器械運動の特性や技の体系をしっかりと理解させる。</li> </ul>	
展開	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習資料の効果的な活用の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を作成する際、予め準備された学習資料・視聴覚機器等を十分に活用することを理解する。</li> <li>・学習活動を効果的にかつ円滑に行うためにビデオ教材や学習ノート等を有効に活用する方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定や解決のためには、学習資料を選択し、十分に活用することが大切であることを理解させる。</li> <li>・学習資料を活用することによって、学習をより楽しく計画的、自主的に進められるようになることを理解させる。</li> </ul>	
	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動種目の選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット、鉄棒、跳箱、平均台の4種目の中から、各自の学習する種目を1つ選択する。</li> <li>・選択した種目毎に班を作り、班の中での役割分担を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の興味、関心、適性、能力等に応じて、自分で選択するように指導する。</li> <li>・各自が選んだ種目、課題について積極的に取り組むことを理解させる。</li> <li>・施設、用具の関係から各種目の実施可能な人数を知らせ、生徒同士の話し合いにより調整させる。</li> <li>・班の中での役割分担は、話し合いにより決定することを理解させる。</li> <li>・学習ノートに役割を記入させる。</li> </ul>	
	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班及び個人の目標の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもった学習計画を立てられるようにするために、班及び個人の目標を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や班の目標を生徒自身に明確にもたせるように指導する。</li> <li>・目標を達成するためには、自分達の能力に応じた課題をもつことが大切であることを理解させる。</li> </ul>	
整理	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予告</li> <li>・挨拶、解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、実際に4種目に分かれて、自己の課題を設定し、適切な学習計画を立てることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、自己診断カードにより自己の能力を確認し、それに応じた適切な課題を設定し、学習計画を立てることを理解させる</li> </ul>	

単元名	器械運動（マット、跳箱、鉄棒、平均台）		配当時間	20時間中2時間目	学年	第2学年女子42名
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力を知る。</li> <li>・自己の能力に応じた適切な課題を設定する。</li> <li>・器械、器具の配置や補助の仕方について等、安全面について理解する。</li> </ul> </li> </ul>					
施設用具	マット（ショートマット8枚、ロングマット4枚）、跳箱（2台）、ロイター板（2台）、鉄棒（4本）、支柱（5本） 平均台（高1台、中2台、低1台）、学習資料、学習ノート、個人ノート、自己診断カード、器具配置図					
段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点		
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、挨拶</li> <li>・出欠点呼</li> <li>・本時の学習のねらいと進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、自己の能力を知り、それに応じた適切な課題を各自で設定すること、及び器械、器具の準備を行い、実際に4種目に分かれて運動しながら学習することを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間、場所の有効利用について認識をもたせる。</li> </ul>		
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断</li> <li>・器械、器具の準備</li> <li>・準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断カードによって現在の自分の能力を知る。</li> <li>・器械、器具の配置を配置図により理解し、準備する。</li> <li>・班長の指示により班毎に分かれて準備運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断カードによって自己の能力を確認させ、適切な課題設定のための判断材料とさせる。</li> <li>・種目別グループで協力して準備させる。</li> <li>・器械、器具を丁寧に扱わせ、安全のためにしっかりと点検させる。</li> <li>・種目に適した準備運動を十分に行わせる</li> <li>・準備運動が足りないグループには、適切な指導、助言を行う。</li> </ul>		
	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断をもとにして、実際に器械、器具に触れながら、学習資料の中から自己の能力に応じた課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元目標は提示するが、個人の目標は生徒自身で明確にもたせる。</li> <li>・能力に応じた課題をもつことの大切さを理解させる。</li> <li>・課題を解決していくためには、学習資料により技の構造を理解し、練習手順を守り合理的に、安全に、学習を進めることが大切なことを理解させる。</li> <li>・互いに補助したり、観察、助言し合って協力して学習することを理解させる。</li> <li>・安全のために、能力を超えた無謀な技への挑戦は絶対にしないように徹底させる。</li> </ul>		
	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画の作成の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が立てた学習の課題を解決し、学習を進めていくために、20時間のうちオリエンテーション（2時間）、中間のまとめ（1時間）、まとめ（2時間）を除いた15時間の全体計画を立案することを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の目標を達成するには、しっかりと見通しをもち、適切な全体計画を立てる必要性を理解させる。</li> <li>・毎時間ごとの計画が整っているときに、学習活動がより意図的、意欲的、かつ自主的に行えることを理解させる。</li> <li>・次時まで、学習計画を作成してくるよう指導する。</li> </ul>		
整理	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習の進め方</li> <li>・器械、器具の片付け</li> <li>・挨拶、解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からは、本時の学習によって設定された各自の課題の達成に向かって自発的、自主的に学習を進めていくことを理解する。</li> <li>・種目別グループ毎に器械、器具を片付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を解決するための学習計画の重要性を再認識させる。</li> <li>・協力して安全に行わせる。</li> <li>・学習ノートの提出期限を守らせる。</li> </ul>		

単元名	器械運動（マット、跳箱、鉄棒、平均台）		配当時間	20時間中3時間目	学年	第2学年女子42名
本時のねらい	<p>◎学習計画に基づいたグループでの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に立てた学習計画に沿って活動を行い、計画の内容や立て方等についての問題点を明らかにし今後の学習に役立てる。</li> <li>・学習を進めていく上での手順を守り、安全に学習を進めていくことを理解する。</li> </ul>					
施設 用具	マット(ソフトマット8枚、ハードマット4枚)、跳箱(2台)、ローター板(2台)、鉄棒(4本)、支柱(5本) 平均台(高1台、中2台、低1台)、教材キット、学習ノート、個人ノート					
段階	時間	学習内容	学習活動		指導上の留意点	
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、挨拶</li> <li>・出欠点呼</li> <li>・本時の学習のねらいと進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、各班及び個人で立てた学習計画に沿っての授業を行うことを理解する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に立てた課題を目標に班員が協力して、安全かつ自発的、自主的に活動するように指導する。</li> <li>・グループ毎に本時の学習内容を確認させる。</li> </ul>	
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械、器具の準備</li> <li>・準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具係の指示により器械、器具を準備する。</li> <li>・各グループに分かれて準備運動を行う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目別グループで協力して準備させる。</li> <li>・器具、器具を丁寧に扱わせ、安全のためにしっかりと点検させる。</li> <li>・種目に適した準備運動を十分に行わせる</li> <li>・準備運動が足りないグループには、適切な指導、助言を行う。</li> </ul>	
	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画に基づいたグループでの活動</li> <li>・整理運動</li> <li>・器械、器具の片付け</li> <li>・班別ミーティング</li> <li>・班別ミーティングの結果発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の達成のために、自発的、自主的に活動を行う。</li> <li>・各グループで整理運動を行う。</li> <li>・種目別グループで器械、器具の片付けを行う。</li> <li>・各グループで本日の反省を行い、次時の課題を確認する。</li> <li>・班のミーティングの結果を発表し合い指導者から本時の活動の内容等について指導、助言を受ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習資料を参考にして技の構造を理解し練習手順を守って合理的、安全に学習を進めるように指導する。</li> <li>・各班を巡回し、適切な指導助言を行う。</li> <li>・種目間で片付けの手順を確認させ順序よく迅速に片付けさせる。</li> <li>・反省の結果を学習ノートに記入させる。</li> <li>・個人ノートに次時の課題を記入させる。</li> <li>・班長に本日の進行状況、問題点等を簡潔に報告させ、適切な指導、助言を行う。</li> </ul>	
整理	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習の進め方</li> <li>・挨拶</li> <li>・解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の反省を生かし、次時からは各自の課題達成に向かい、より自発的、自主的に学習を進めていくことを理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の反省を生かし、次時は更に各自が工夫して学習を進めるように指導する。</li> <li>・学習ノート、個人ノートの提出期限を守らせる。</li> </ul>	

## 6. 指導結果とその考察

仮説を検証するため、実証授業後、実証授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。

対象 都立高等学校 1校 122名

ア 器械運動の実証授業に対して、「授業は楽しかった」が82.8%で、「楽しくなかった」が2.5%であった。楽しかった理由の上位3項目は、「自分で好きな種目を選べたから」が77.0%、「選択した種目のグループでお互いに補助したり、仲間意識がもてたから」が68.0%、「自己に適した課題を立てて、達成することができたから」が55.0%であった。

イ 器械運動の授業に対して、「意欲的に取り組めた」が86.0%、「意欲的に取り組めなかった」が2.5%であった。意欲的に取り組めた理由の上位3項目は、「自分で好きな種目を選べたから」が74.0%、「自己に適した課題を立てて、達成することができたから」が65.0%、「選択した種目のグループでお互いに補助したり仲間意識がもてたから」が62.0%であった。

ウ 学習課題については「達成できた」が45.0%であり、技能に関しては「上達した」が70.5%であった。これらのことから、ほぼ課題を達成できた生徒が多数いたと考えられる。

エ 器械運動のイメージとして「楽しい」が48.0%、「美しい」が41.0%、「怖い」は17.0%であった。このことから、器械運動の楽しさを味わえた生徒が多いと考えられる。

オ 運動量については、「十分に得られた」が64.8%、「いいえ」が4.9%であった。

カ 学習資料については、「役にたった」が54.9%、「役にたたなかった」と否定的に答えた生徒は4.9%と極めて少なかった。このことから、学習資料は、技の構造の理解や段階的練習法の理解に概ね有効であったと考えられるが、生徒に積極的に活用させるには、一層の改善・工夫が必要である。

以上のことから、生徒一人一人が自己の能力にあった適切な学習課題を設定し、仲間と協力して学習を行うことにより、楽しく意欲的に学習に取り組み、技能を高め成就感を味わうことができたと考ええる。

また、安全への十分な配慮、学習の場の工夫、事前指導における器械運動の技能構造や段階的練習法の理解が、器械運動に対する「怖い」というイメージを取り除き、生徒の積極的な授業参加に有効であったと考ええる。

## 7. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

- ア 生徒の希望を生かした領域内種目選択や、自己の能力にあった技の選択をさせたことが、器械運動の授業をより楽しくさせ、自主性を伸ばす原動力となった。
- イ 生徒に希望する種目を選ばせ、適切な学習課題や学習方法を選択させ、自主的にかつ安全に学習活動をさせるためには、事前指導を含めた指導の工夫が重要な役割をもつと考え、器械運動の特性の理解や安全に対するきめ細かい指導を行うと同時に、十分な時間を配当し、参考資料や場を工夫したことにより、生徒の意欲的な授業参加がみられた。
- ウ 自己診断により、生徒の能力にあった課題を設定し、学習計画を立て、活動させた。また、その反省、評価をさせることにより、選択制授業への認識を深め、意欲的に学習に取り組ませることができた。
- エ 種目別グループ活動の中で、互いに補助やアドバイスを行うことによって協力する態度を育成することができた。
- オ 学習資料等を活用し、器械運動の技能構造を理解させ、系統的・段階的な学習方法を身に付けさせることにより、安全に学習を進めていく能力を育成することができた。
- カ 個に応じた課題を設定し、学習に時間をかけ、習熟を配慮したことにより、生徒一人一人の技能が上達し、そのことが学習意欲の高揚につながった。
- キ 毎時間の具体的な目標・課題を設定し、学習ノートを活用することによって、絶えず課題を意識した学習活動ができた。
- ク 学習ノートを活用したり、発表会を実施することにより、生徒が相互評価を行い、個人としても課題の達成を確認できた。

これらのことから、仮説「生徒一人一人に、自己の能力に応じた適切な学習課題を設定させ、学習活動を計画・実践させることにより、学習意欲を高め、自主的に学習できる能力と態度を培うことができる。」ことを検証できた。

### (2) 今後の課題

- ア 補助法を含めた学習資料の一層の改善・工夫。
- イ 安全確保に対する一層の工夫。
- ウ 視聴覚機器の積極的な利用法の検討と工夫。
- エ 生徒の学習意欲を育てる評価法の工夫。

### Ⅲ 研究の内容

#### 「バスケットボール」

##### 1. 研究内容

生涯体育・スポーツと体力の向上を重視した「体育」の指導では、生徒一人一人が内発的動機により運動の特性をより深く味わい、自己教育力を育成できるように、一人一人を生かしていくことが重要である。

個人及びチームの特色に応じた学習課題をもち、各チームが自主的・計画的に練習しゲームを運営していくためには、ゲームの楽しさにふれさせながら、より高度な運動技能に挑み自己の努力と工夫で課題を達成した喜びなどを味わうようにし、同時に協力、公正等の社会的な態度を身に付けさせることを忘れてはならない。

本年度は「学習意欲を高め、自主的に実践する能力と態度を培う学習指導の工夫」を主題とし、B班はバスケットボールを取り上げた。生徒の自主的な学習活動を促し、個人及びチームの適切な学習課題を設定し、学習活動を計画・実践させ、生徒一人一人の学習意欲と能力を高めるための「学習資料の工夫・学習ノートの工夫・自己評価の活用」について重点を置いて研究を進めた。

選択制授業やバスケットボールの授業に対する生徒及び教師の意識・実態調査を行い、問題点を分析し、その結果をもとに、下記の仮説を設定した。

##### ◎ 仮説

「ゲームの楽しさにふれさせながら、個人やチームの能力に応じた学習課題を設定させ、学習活動を計画し、実践させることにより、生徒一人一人の学習意欲を高め、自主的に学習できる能力を培うことができる。」

そこで、上記の仮説を検証するために指導計画を作成し、実証授業を行い、その結果を分析、考察した。

##### 2. 「バスケットボールの特性」とねらい

###### (1) 特性

ア 攻防が入り交じる中でボールを運び、ゴールにシュートして得点することを競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる。

イ チームの中で、生徒一人一人が個々の特性や役割を自覚して、その責任を果たし、お互いに協力し合うことで楽しむことができる。



(2) ねらい

- ア パス、ドリブル、シュートなどのボールの扱い方、フットワーク、フェイントなどの身体の使い方などの個人的技能を相手に応じて活用できるようにする。
- イ 攻撃の技能としての速攻やセットオフense、防御の技能としてのマンツーマンディフェンスやゾーンディフェンスなどの集団技能を、攻防における競い合いの中で取り扱えるようにする。
- ウ ゲームでは、既習の技能を作戦を立てて活用できるようにするとともに、技能の向上の程度に応じてルールを工夫して行えるようにする。

3. 意識・実態調査とその考察

(1) 調査対象

- ・教師 都立高等学校 31校 保健体育科教諭 93名
- ・生徒 都立高等学校 7校 626名
  - 2年生(男子)126名 2年生(女子) 82名
  - 3年生(男子)216名 3年生(女子)202名

(2) 調査内容

<生徒>

- ・バスケットボールの楽しさ
- ・バスケットボールの個人技能
- ・課題の設定方法
- ・教師の指導・助言
- ・参考資料の活用
- ・学習ノートの内容
- ・評価及び評価の重点
- ・男女共習

<教師>

- ・指導計画
- ・男女共習
- ・バスケットボールの具体的目標
- ・学習資料の活用
- ・評価方法
- ・形成的評価
- ・評価の重点
- ・生徒の実態

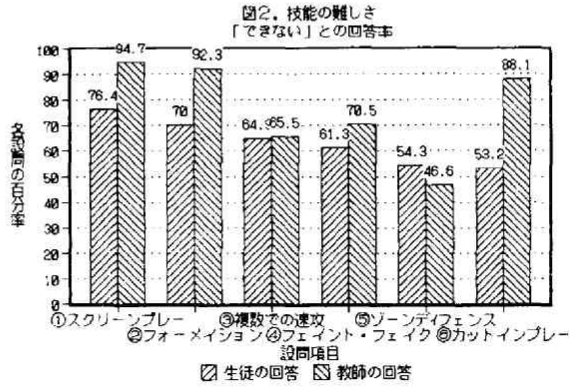
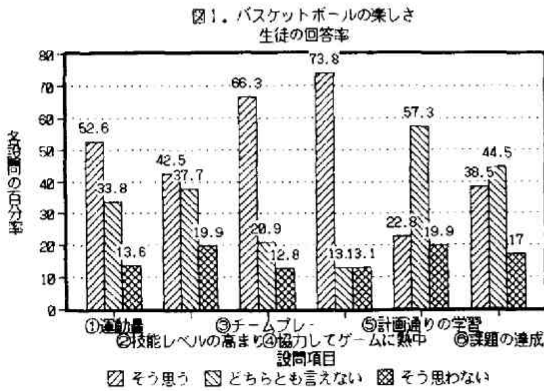
(3) 調査時期 平成4年7月

(4) 結果と考察

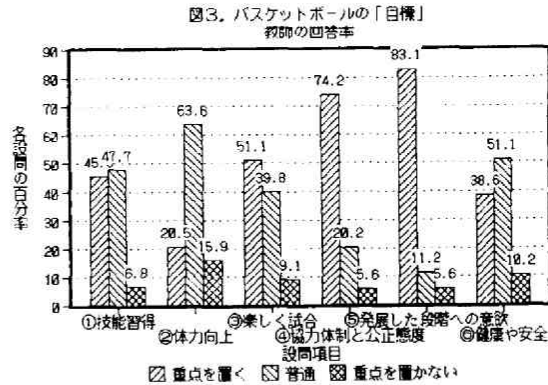
- ア 年間指導計画の中で、選択制授業を実施している学校のうちバスケットボールを実施している学校は52.9%である。
- イ バスケットボールの授業で、生徒が楽しいと感じるときは、「皆と協力してゲームに熱中できたとき」「チームプレーができたとき」を上げている(図1)。しかし、「難しさ」

を訴える生徒もいる。その理由としてスクリーンプレー、フォーメーションプレー、複数による速攻ができないと答えている。教師の側から生徒を見ても、同様な実態把握をしている(図2)。

以上のことから、ルールや審判法・フォーメーションプレーについての理解を深め、ゲームやチームプレーを多く取り入れるなどの指導方法の工夫・改善により、生徒の学習意欲を高めることができると考える。



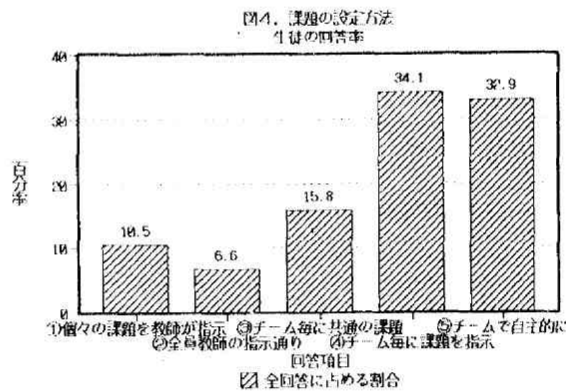
ウ 選択制授業のBasketボールの具体的な目標についての問いに対し、教師は、「技能の習得」はもとより「自己やチームについての理解を深め、さらに発展した段階の学習を進める意欲と態度の育成」「仲間との協力体制と公正な態度の育成」に、より重点を置いている(図3)。



このことから、技能の習得とともに、自己や集団についての理解に基づき全員が協力し、公正な態度でゲームを楽しみ、さらに発展した段階へと意欲的に学習に取り組む態度を育てることが、選択制授業のBasketボールの目標として望ましいと考える。

エ 「課題の設定方法」について生徒は、「チーム毎に教師の指示を受ける」「チーム毎に自主的に計画し学習する」ことを望んでいる(図4)。

このことから、課題を主体的に設定させるために、チーム毎に教師が適切な指導や助言を与えたり、適切な学習資料を

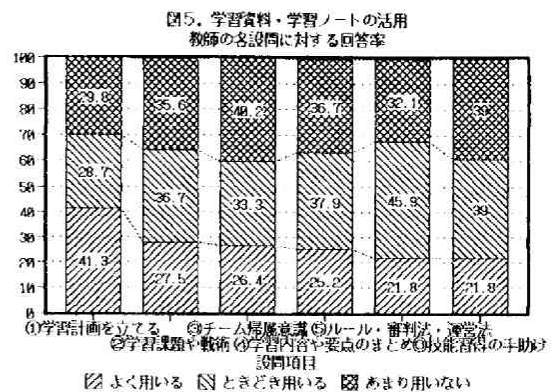


提供することにより、生徒の学習意欲や協調性が高まり、計画的に運動を行う習慣が培われると考える。

オ 生徒が求めている「指導」や「助言」は、技能に関する内容がもっとも多い。活用したい資料として、「一流選手のVTR」を第一位にあげている。生徒は技能の向上にも強い関心を抱いている。チームや個人の能力に応じた学習課題や学習方法を選択し、生徒が主体的に計画を立て学習を進めていくことにより、生徒一人一人の技能を向上させるとともに学習意欲を高めることができると考える。また、この学習活動を援助するためには、生徒の実態をよく把握し、学習効果を高める学習資料等の工夫が必要である。

カ 学習資料・学習ノートの活用について

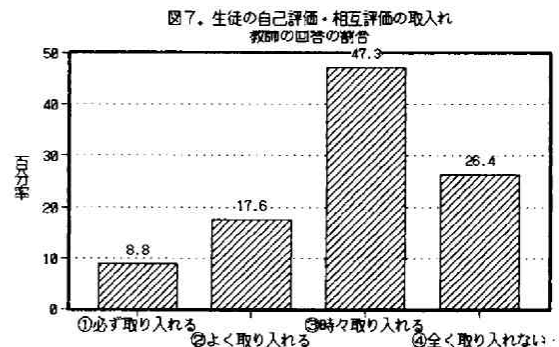
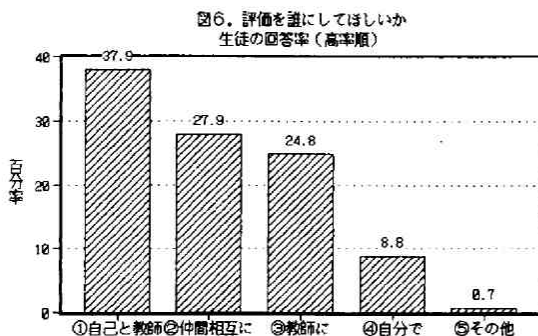
の問いに対して教師は、「練習計画を立てさせるため」「学習課題や試合の戦術を見付けさせるため」「チームとしてのまとまりや、チームへの帰属意識を高めるため」と答えている。しかし、全体の活用頻度を見ると、あまり用いていないのが実態である(図5)。



学習資料や学習ノートは生徒の自主的な活動を援助するためにも、実際に活用し易いものであるように、その内容及び活用方法についてよく吟味し精選することが必要である。

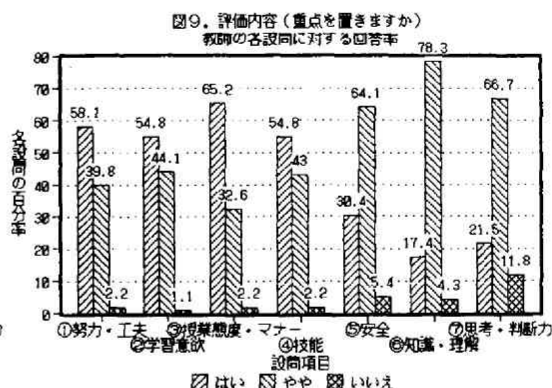
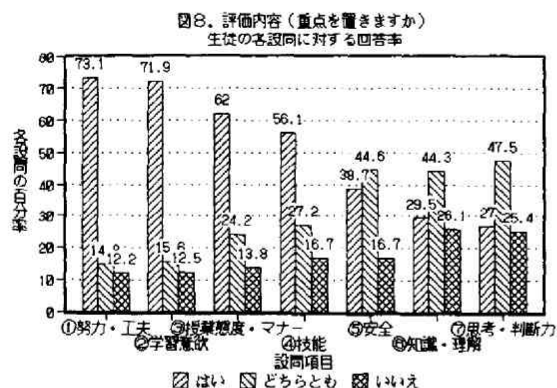
キ 「評価を誰に行ってもらいたいのか」という問いに対して、生徒は第一位に「自己評価を重視して、最終的には教師の評価」「生徒相互の評価」をあげている(図6)。しかし、教師の側では、「自己評価」「相互評価」を常時、活用しているという答えは多くなく、全く取り入れないという回答も同数(26.4%)ある(図7)。

生徒の「自己評価」「相互評価」を十分に活用することは、生徒が主体的な学習を進めたり、自分の学習活動を修正したり、改善したりする上で大きな役割を果たすと考える。



ク 評価内容について生徒は、「努力や工夫」「参加の意欲」「進歩の度合」「授業態度」に重点を置くことを望んでいる(図8)。

それに対して教師の側も評価の内容として、「授業態度」「努力や工夫」「学習意欲」を重視している(図9)。



ケ 実際に選択制の授業を受けるとしたら、バスケットボールを選択すると答えた生徒は、46.2%であった。しかし、男女共習でも選択するという条件が付くと、その値はやや下がりがり36.4%となる。特に女子では、44.4%から28.9%へと減少している。

このことから、男女共習については、運動の領域、種目の特性等に配慮するとともに、十分に理解を深めさせていく必要がある。

#### 4. 指導計画

##### (1) 指導の方針

- ア バスケットボールの特性を理解させ、ゲームを通してバスケットボールの楽しさにふれられるように配慮した。
- イ 生徒自身が適切な課題をもち、学習資料・学習ノートを活用しながら自主的・計画的な学習が行えるようにした。
- ウ 自他の健康・安全に留意して活動できるようにした。

##### (2) 指導の工夫

###### ア オリエンテーションの重視

自ら選び、自ら学ぶという選択制授業のねらいを理解させるために、オリエンテーションに2時間をあてた。特に2時間目は、試しのゲーム及びスキルテストを実施し、適切な個人及びチームの課題の発見や、今後の学習計画の立て方・進め方の参考とさせた。

###### イ チームの編成

練習及びゲームが円滑に楽しく行えるように、各チームにバスケットボール経験者を均

等に配置し、各チームの総合力が均一になるように教師の助言のもと、生徒の話し合いで決めさせた。

#### ウ 指導計画の工夫

「個人技能を中心に」「集団技能を中心に」「ゲームを中心に」学習するねらいと学習活動の流れを示し、どの段階からでも学習が可能であることを理解させ、個人とチームの実態に応じて適切な学習課題を設定できるようにした。

#### エ ゲームの重視

2対2から5対5までのゲームをチームの実態に応じたルールで実施できるよう4段階のルールを準備し、ゲームの楽しさにふれさせるとともに、個人及びチームの課題や学習方法を選択し、学習計画を立案する際に役立たせた。

#### オ 学習資料の有効な活用

バスケットボールの技能を基礎編・応用編に分け、能力に応じて使いやすようにした。学習計画を作成する際に学習資料を準備し、学習活動を効果的かつ円滑に行うために十分活用させた。特に学習資料は、ゲームにおける動き方の理解に重点を置いて作成した。

#### カ 学習ノートの充実

生徒の自己評価及び相互評価の能力を高めさせるため、学習ノートの充実を図り、次の学習課題の設定に生かすことができるように工夫した。

#### キ チェックシートの活用

試しのゲーム及び中間まとめにおいて、チェックシートを利用して自己の技能や活動状況を正確に把握させ、学習ノートの自己評価及び相互評価と共に次の学習課題の設定に生かせるようにした。

### (3) 単元計画

ア 今回は第2学年女子を対象に20時間を配当した。

イ 単元計画は、平成元年度東京都高等学校教育開発委員会による資料を参考にした。本研究では、オリエンテーション・展開Ⅰ・中間まとめ・展開Ⅱ・まとめの指導計画を作成した。

オリエンテーション・展開Ⅰ・中間まとめ・展開Ⅱ・まとめの指導計画

段階	時間	ねらい	生徒評価		教師	
			学習活動		指導内容	留意点
オリエンテーション	1	選択制授業の進め方を理解し、学習計画立案のための課題の持ち方を理解する	① 選択制授業の主旨・概略の理解 ② 学習ノートの活用方法と評価についての理解 ③ 学習資料の効果的な活用の仕方の理解 ④ 学習計画の作成の仕方の理解 ⑤ 毎時の授業の進め方の理解 ⑥ 選択科目希望調査の記入 ⑦ チーム編成 ⑧ 役割分担 ⑨ 次時の試しのゲームの確認	・選択制授業の主旨、概略が理解できたか ・学習資料、学習ノートの活用の仕方が理解できたか ・学習の進め方が理解できたか ・適切な選択及びチーム編成が話し合いで行われたか	・選択制授業を理解させる ・学習の進め方を理解させ、評価の理解を深めさせる ・学習資料の効果的な活用方法を理解させる ・学習の進め方を理解させる ・適切な選択をさせチーム編成、役割を決めさせる	・学習のねらいと進め方を十分理解させる ・チーム編成については、各チームの総合力が均等になるように生徒に話し合いで決めさせる
			① スキルテスト ② 試しのゲーム ③ チェックシートによる本時の活動の反省・評価 ④ 学習ノートの具体的記入の仕方の理解 ⑤ 学習計画の立案の理解 ⑥ 学習計画の作成	・スキルテスト、試しのゲームの結果を正しく自己評価できたか また、今後の学習活動に生かすことができるか	・スキルテストのねらいと実施方法を理解させる ・スキルテスト、試しのゲームの結果を自己評価させ、学習課題と学習方法を見いださせる	・課題意識をもって学習を進めるように指導、助言を適切に行う
展開Ⅰ	8	個人及びチームの課題に基づいた効果的な練習を実践する	① 学習計画に基づく自主的な活動 ② チームごとの反省・評価 ③ チームごとのコートや用具の片付け	・チーム毎に活動が計画通りできたか ・本時の計画が適切であったか、次の課題が見いだされたか ・安全に留意した活動ができたか	・活動中の指導、助言を適切に行い、計画に沿った活動をさせる ・本時の活動の反省を積極的に行わせ、個人及びチームの次の課題を見いださせる	・チーム毎に活動が円滑に進むように指導する ・安全面について十分な配慮が行われるように指導を徹底する ・チームを巡回し反省内容等について助言する
中間まとめ	1	学習を反省し計画の再検討を行う	① スキルテスト及び段階的ルールを用いたゲーム ② スキルテスト及びゲームの結果についての反省、評価 ③ 今後の学習課題の再検討 ④ 新たな課題の設定 ⑤ 相互評価	・スキルテストやチェックシートの結果を今後の学習計画に生かしているか	・スキルテストの結果やチェックシートでの反省点について話し合いの場で得た意見を参考に学習活動の再検討を行わせる	・十分に意見を出し合い、学習活動の再検討を行わせる
展開Ⅱ	8	中間まとめでの成果を生かし、より高いレベルの課題を設定し、効果的な練習を実践する	① 新たな課題に基づく自主的な学習活動 ② チーム毎の反省・評価 ③ チーム毎のコートや用具の片付け	・各チームが課題解決を図るために自発的・自主的に活動できたか ・学習方法・学習計画が適切であったか	・活動中の指導、助言を適切に行い、新しい課題に挑戦させたり、活動の仕方を工夫させ、個人及びチームの課題を解決させる	・安全面について十分な配慮が行われるように指導を徹底する ・チームを巡回し反省内容等について助言する
まとめ	1	単元の反省をする	① スキルテスト及び段階的ルールを用いたゲーム ② 学習ノートの整理 ③ 自己評価・相互評価 ④ チーム毎の学習全体のまとめ・評価 ⑤ 感想文	・技能が向上したか ・ゲームの楽しさにふれられたか ・チーム活動が協力してできたか ・継続的に運動を実践する意欲能力が身に付いたか	・チーム毎にまとめと評価を行う	・学習ノートをもとに十分な話し合いをさせる ・正しく自己評価相互評価ができるようにする

5. 指導事例（実証授業）

単元名	バスケットボール		担当時間：20時間中 1 時間目	学級：第2学年7・8組女子43名	
本時のねらい	◎ オリエンテーション ・選択制授業の主旨・概略を理解する。 ・チーム毎に自主的に学習する内容・方法を理解する。 ・選択希望調査を行い、それに基づいてチームを編成し、チーム内の役割分担を決める。				
施設 用具	・普通教室 ・学習資料 ・学習ノート ・参考資料（プリント1枚）				
段階時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点		
導入	10分	・集合 ・挨拶 ・出欠調査 ・選択制授業の主旨及び概略	・体育の新しい方向と選択制授業について理解する。 ・個人やチームで課題を持ち、自発的・自主的に学習を進めていく授業の全体像を理解する。 ・学習の流れ（Plan-Do-See）を理解する。	・分かりやすく説明し、十分に理解させる。 ・意欲的・積極的に取り組むことを強調する。 ・生徒が自ら選び、自ら学ぶ。それを教師が支援することを生徒に理解させる。	
	8分	・学習資料、学習ノートの効果的な活用方法と評価	・学習ノートの記入方法を理解し、個人やチームの課題を見いだすための自己評価を理解する。 ・課題解決のために学習資料を積極的に活用することを理解する。	・学習資料・学習ノートを参照させる。 ・適切な課題の発見、学習ノートを利用した自己評価について理解させる。 ・評価と評定の違いを理解させる。 ・自分達に適した練習方法を見だし、実践することを理解させる。	
展開	10分	・学習計画の作成の仕方	・単元（実施可能種目）の目標から個人やチームの課題を決める。 ・学習課題を解決し、学習を進めていくためにオリエンテーション等を除く16時間の全体計画を立案することを理解する。 ・全体計画に即して、毎時間ごとの個人やチームの学習計画を立てることを理解する。 ・毎時間、ゲームを行うことを理解する ・学習計画を作成する際、学習資料（チーム毎の学習の方法、実施可能種目の練習方法、ルールやゲームの運営方法等）を十分に活用することを理解する。	・選択制授業は、個人とチームがそれぞれ課題を設定し、自発的、自主的にチーム活動を行うことが必要であることと、そのために適切な学習計画を立てることが大切であることを理解させる。 ・見通しのある全体計画、毎時間の計画や次時の計画が整っている時に、学習活動がより意図的、意欲的かつ自主的に行えることを理解させる。 ・今、もっている力でゲームを楽しみ、学習資料から適切な練習方法、ルールやゲームの運営方法を選び、工夫することの必要性を理解させる。	
	2分	・授業の進め方	・グループ毎に集合し、出欠調査、本時の活動内容の確認、施設用具の準備、準備運動、主運動、整理運動、反省、片付けという授業の流れを理解する。	・生徒が主体的に取り組めるように具体的に流れのイメージをもたせる。	
閉	15分	・選択種目希望調査	・実施種目選択肢の中から、各自の興味能力、関心、適性に応じて種目を選択する。	・主体的に慎重に選択するように指導する。 ・一人一人こまめに助言するように心掛ける。	
	5分	・チーム編成と役割分担	・一チーム5～10人になるように、また、チームの総合力が均等になるようにチーム編成する。 ・チーム内で班長1名、副班長1名、出欠係1名を決める。	・各チームに、バスケットボール経験者を均等に分け、チームの総合力が均等になるように指導し生徒達が話し合いで決めるように配慮する。 ・役割分担も生徒達の話し合いで決めさせる。	

単元名	バスケットボール		配当時間：20時間中 2時間目	学級：第2学年7・8組43名
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ オリエンテーションII</li> <li>学習計画立案のためのスキルテスト及び試しのゲームを行う。</li> <li>チーム毎にチェックシートを活用してミーティングを行い、個人及びチームの課題の見いだす。</li> <li>安全面に留意し、チーム全員で協力して実施する態度を養う。</li> </ul>			
施設 用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館</li> <li>・学習資料 ・学習ノート ・チェックシート</li> <li>・筆記用具</li> <li>・ボール ・ホイッスル ・ゼッケン ・ストップウォッチ ・得点板</li> </ul>			
段階時間	学習内容 学習活動 指導上の留意点			
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合</li> <li>・挨拶</li> <li>・出欠調査</li> <li>・選択種目の確認</li> <li>・本時の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の選択した種目を確認する。</li> <li>・本時はスキルテスト及び試しのゲームを行い、チェックシートで自己及びチームの課題を見付け、今後の学習計画について話し合う。</li> <li>・試しのゲームの審判やゲームの運営の約束ごとを理解する。</li> <li>・安全に留意して活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をし、選択制授業について更に理解を深めさせる。</li> <li>・選択した種目を再確認させる。</li> <li>・本時のねらいを十分理解させる。</li> <li>・ゲームのルールや運営方法について理解させる。</li> </ul>
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで協力してコートや用具の準備</li> <li>・チーム毎の準備運動</li> <li>・スキルテスト</li> <li>・試しのゲーム</li> <li>・チェックシートの記入</li> <li>・チーム毎のミーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム毎にコートや用具の準備を行う。</li> <li>・チーム毎に準備運動を行う。</li> <li>・下図の様に①～⑩の位置より順番にシュートし、10本シュートして何本入ったか、確認する。</li> <li>・チーム対抗で試しのゲームを行う。</li> <li>・前後半、時間は5分とし、合計10分間行う。</li> <li>・5人以上のチームは、前半、後半どちらに出るか決めておく。</li> <li>・ルールはバイオレーションのうちトラベリングとダブルドリブルを、パーソナルファールはすべて適用する。</li> <li>・あらかじめ用意されたチェックシートを用いながら行い評価する。</li> <li>・各自の技能水準を知る。</li> <li>・自己及びチームの課題を設定する。</li> <li>・本時の活動やミーティングの内容について指導、助言を受ける。</li> <li>・学習ノートの記入者を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して素早く行わせる。</li> <li>・用具を丁寧に扱わせ、点検させる。</li> <li>・準備運動を十分に行わせる。</li> <li>・スキルテストでは以下の点に注意させる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1)シュート・フォームは自由とする。</li> <li>2)シュート場所は、フリースローレーンより1m外側から①～⑩の位置とする。</li> <li>3)一人の生徒が10本続けて移動しながらシュートする。</li> <li>4)シュートが入った本数を学習ノートに記入する。</li> <li>5)協力して行わせる。</li> </ol> </li> <li>・チームの運営は全員に協力させ、円滑に行わせる。</li> <li>・ゲームを通して、自己及びチームの課題を見付けることを理解させる。</li> <li>・ルールの適用については徹底して理解させる。</li> <li>・各自、正確にチェックシートに記入させる</li> <li>・チェックシートを活用させて、自己及びチームの課題を見いださせる。</li> <li>・ゲーム中心に学習計画が組立てられるように適切な指導、助言をする。</li> <li>・チームを巡回しながら、話し合いの内容を把握し、指導する。</li> </ul>
整理	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習の進め方</li> <li>・コートや用具の片付け</li> <li>・挨拶、解散</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からは、本時に学習したことを生かして適切な学習計画を立て、自主的、主体的に学習を進めていくことを理解する。</li> <li>・チーム毎にコートや用具の片付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の能力に応じて、適切な課題をもった学習計画の重要性を再認識させる。</li> <li>・学習ノートの提出期限を守らせる。</li> <li>・安全に協力して行わせる。</li> </ul>



## 6. 指導結果とその考察

仮説を検証するため、実証授業後、授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。

対象 都立高等学校 1校 58名(2学年女子)

ア バスケットボールの授業に対して「楽しく意欲的に取り組むことができた」と回答している生徒は93.1%で、ほとんどの生徒が今回の授業でバスケットボールがより好きになったと答えている。

イ チーム毎に設定した学習課題については「予定通り達成できた」とする生徒は37.9%で、「まあまあできた」と回答した生徒は60.3%であった。

ウ オリエンテーションの中で「試しのゲーム」を行ったが「自分の課題発見」(82.8%)「班の課題発見」(81.0%)「学習計画立案の参考」(73.7%)に対して有効であったとしている。

エ 学習資料については「内容が自分達のレベルにあった」(56.9%)「大変参考になった」(50.0%)「イラストが多くイメージしやすかった」(44.8%)という意見が多かった。しかし、「量が多すぎる」(27.6%)という意見もあった。

オ 学習ノートについては「書く量が多く、面倒」(31.0%)という意見もあるが、「自己評価があって良い」(91.4%)「ゲーム記録表で自分の成績が分かって良い」(82.8%)「書きやすく扱いやすい」(62.1%)と概ね好評であった。

カ 自己評価、相互評価については「自分の参加の様子が分かって良い」(84.5%)「仲間の評価が励みになる」(55.2%)という意見が多く、内容的にも適切であったといえる。また、その必要性についても自己評価(80.7%)、相互評価(64.2%)ともに高い数値を示している。

キ ゲームの運営については、「自分達だけで審判等の運営ができて良かった」(87.9%)「役割を一通り行えた」(59.6%)という点に満足感を得ている。

ク 「チーム練習をしてからゲーム」という授業展開に対し89.7%の生徒が適切かつ必要であると答えている。

以上の結果、適切な自己及びチームの学習課題を設定し、その課題を解決させるために、学習資料や学習ノートの内容を工夫し効果的に活用させ、自己評価や相互評価を積極的に行わせたことにより、課題解決ができた。その結果、楽しく意欲的に学習を行うことができたと考える。

## 7. まとめと今後の課題

### (1) まとめ

- ア 生徒の興味・関心，能力，適性に応じて種目を選択させ，自主的に学習活動する習慣を身に付けさせようとする選択制授業の概要を事前指導で十分理解させた。チーム及び個人に応じた学習計画を立案，実践させることにより，生徒の学習意欲の向上がみられた。
- イ 毎時間ゲームを実施し，「チームの課題にあった練習」→「ゲーム」という授業展開は適切であり，生徒は楽しく意欲的に参加することができた。また，自分達だけで審判等の役割を分担し運営することにより，自主的な学習態度を養うことにもなった。
- ウ 事前指導の2時間目に「試しのゲーム」を行い，その反省，評価をすることにより，課題の設定とその解決方法についての認識を深めることができた。
- エ 学習資料を用意して，生徒に自己及びチームの能力に応じた練習方法を工夫させ，積極的に利用させた。このことは自発的・自主的な学習を進めるうえで効果的であった。
- オ 学習ノートに「計画・立案」「ゲーム成績の記録」「自己評価」「チームの反省」の4項目から構成し，これを生徒に活用させることにより，主体的学習の意識を高めることができた。その結果，学習活動を再検討させることになり，より適切な学習課題や学習方法を設定させることができ，学習計画を遂行するのに役立った。
- カ 自己評価，相互評価の積極的活用は，生徒が自己の学習活動を振り返る上で有効であり，また，仲間から評価されることは，自己の励みになり，学習意欲の高揚につながった。
- これらのことから，仮説を検証することができたと考える。

### (2) 今後の課題

生徒は，自己及びチームの課題を設定できたが，授業全体を通しての課題解決の見通しをもつことや，適切な練習方法を工夫すること，また途中でうまく実施できなかった時にどう対処すべきか等の点で困惑することがあった。このことは，生徒が選択制授業の経験の浅いことや，領域選択における種目数によって，施設面で制限され十分に活動できない状況であったこと，また，一人の教師の担当種目が多く，一つの種目に対して十分に指導することができなかったこと等が原因と考えられる。このことから，今後の課題として①最終学年まで見通す一貫した選択制授業の位置づけ，②教師の適切な指導の工夫，③施設や担当教師数に応じた種目の設定，④「段階的ルールの適用」「学習資料の活用」「学習ノートの工夫」などの一層の改善・工夫，⑤「評価，評定のあり方」の検討等が必要である。